B-2

ただの読点、だけどね：構文構成要素としての読点*

堀内ふみ野（大東文化大学）・中山俊秀（東京外国語大学）

[**要旨**] 文法構造の研究において、語彙的要素でも文法的要素でもない読点は、書き手の文体に依拠する周辺的要素と捉えられる傾向にあった。しかし、実際の言語使用では、読点が文法構造の形成に深く関わっていると思われる例が見られる。その一つが、ブログや Twitter でしばしば観察される、「だけどね」の前に読点が置かれている事例群である。本研究では、主に国語研日本語ウェブコーパスを用いて当該表現の用法を調査し、「だけどね」の前に読点が生起する「X、だけどね」の形式が、より一般的な読点なしの形式「X だけどね」とは異なる、独特の分布と機能を持つ構文として使い分けられていることを示す。さらに、この事例を用法基盤のアプローチから考察し、読点も、言語使用に依拠して形成された文法的構文の構成要素になりうることを提案する。

1. はじめに

ブログや Twitter などのソーシャル・メディアでは、「だけどね」の前に読点が挿入された、以下のような事例がしばしば観察される。

(1) a. 90 点は超えてるんじゃないかな？ たぶん、だけどね (@monsta_564, 2021/2/12, Tweet)

b. これアップできたら、もっかいチャレンジしてみようかなぁ。
う～ん。気力があれば、だけどね。（国語研日本語ウェブコーパス）

c. あの人なら、絶対言わないことも言ってくれる…あの人の口からも、聞きたいな…w
ただの願望、だけどね (@zlkSpNoK3VPIqvR, 2019/8/23, Tweet)

読点は、一般的に、発音上の息継ぎのためのガイドや、統語的・意味的に曖昧な構造を示し分ける要素と考えらえてきた。しかしながら (1) での「たぶんだけどね」「気力があればだけどね」「ただの願望だけどね」はいずれも一息で発音可能な短い表現であり、読点がなくても統語的曖昧性が生じる危険性はないであろう。ここでは、従来指摘されてきたような機能的要請がないにもかかわらずコピュラ「だ」の前に読点が置かれており、この読点はソーシャル・メディアに見られる非標準的な句読法 (Houghton et al. 2018) の一種と考えられる。

本研究では、まず、どのような場合に「X、だけどね」の形式が使われるのかを、読点なしの「X だけどね」との対比から探る。それをもとに、読点を入れなくてもよいと思われる箇所に読点を入れることによって得られる効果を、構文との関わりから考察する。

2. 本研究の背景

文法研究において句読法は、書き手の文体に依拠する周辺的要素とみなされる傾向にあり、その用法に関する記述や考察も、一部の文法書や学習指導書に限られてきた (cf. 柴﨑 2019: 144)。特に日本語の読点は、書き手が文を区切りたい箇所に比較的自由に挿入可能な要素と考えられており、『新版日本語教育辞典』(2005: 379) でも、「句読点は文を読んで意味がわかりやすくするた

* 本研究は一部、JSPS 科研費 19K13226 の助成を受けた研究の成果に基づいている。

めに、語句の長さ、漢字仮名表記、文法構造等に配慮して打つもので、絶対的なルールはない」と書かれている。斎賀 (1959: 258) は、読点は「文中の語句と語句との関係がまぎらわしくないように、言いかえれば、読み取りやすいように、また読み誤りのないようにするために、打たれるもの」と説明した上で、息の切れ目や口調に応じて挿入される側面もあることを指摘し、「打ち方に客観的な基準がないため、文章の性質や書き手の個人差によって、打つ度合いにかなり違いが生じる」(ibid.: 259) とまとめている。こうした背景もあってか、語彙的要素でも文法的要素でもない読点は、安定的な文法構造の構成要素としては捉えられず、文法研究において踏み込んだ考察の対象とはされてこなかった。

しかし、言語使用の観点から見ると、読点も書き言葉や「打ち言葉」 (田中 2014; 文化審議会国語分科会 2018) の使用を構成する一つの要素である。用法基盤のアプローチ (usage-based model) では、言語使用者の構文に関する知識は、具体的な言語使用の経験の中から、文脈的情報を伴う形で構成されていくと考えられている (Bybee 2006, 2010 等)。実際の言語使用においては、読点もほかの語彙的・文法的要素とともに生起しており、たとえそれが厳密な規則に基づく使われ方でなかったとしても、我々は読点の使い方に関する何らかの知識を有していると考えられる。近年、話しことばの研究では、使われている単語やその配列が同一であっても韻律の違いによって異なる意味を持つ発話があることが指摘され、パラ言語的な要素も構文の形式を構成する要素になりうることが提案されている (Thompson et al. 2015 等)。これに基づくならば、書き言葉や「打ち言葉」においては、読点も構文的なパターンを構成する形式の構成要素となっている可能性が十分に考えられる。こうした観点から、本研究では、読点を含む形式である「X、だけどね」が持つ独自構文としての特性を、「X だけどね」との比較を通して検討していきたい。

3. データと調査方法

本研究では、「X だけどね」と「X、だけどね」それぞれの X（「だけどね」の先行部）の形式を観察し、その分布の異なりを調べた。データとしては、国語研日本語ウェブコーパス（以下、NWJC）のデータを検索系『梵天』を使って抽出した。同コーパスは、ウェブを母集団とした 258 億語規模のコーパスで、『梵天』では 2014 年 10～12 月に収集されたデータが公開されている。なお、以降で示す事例のうち、出典表記がないものはすべて NWJC から採取した実例である。

『梵天』を使った調査手順を示す。まず、「だけどね」と「、だけどね」をそれぞれ文字列検索したところ、「だけどね」が 899,711 例、「、だけどね」が 1,462 例抽出された。しかし、「だけどね」の事例のうち 679,503 例は「んだけどね」の形式（過去・完了の「た」が濁音化した「だ」の事例（e.g. 読んだけどね）または「のだ」形（e.g. 読んだんだけどね））であったため、これらを除外した 220,208 例を今回の対象とした。「んだけどね」を除外した理由は、「読ん、だけどね」「読んだん、だけどね」のように「ん」と「だ」の間に読点が入る事例が NWJC には見られず、これはそもそも読点を入れた表現が生じない環境だと考えられたためである。

次に、上記から、「X だけどね」と「X、だけどね」の該当事例を各 500 例ランダムサンプリングにより抽出した。その際、「だけどね」が文頭で接続詞として使われている事例や誤記など、分析対象外の事例が観察された場合は手作業で除外した上で、除外した件数分を新たに補充する作業を繰り返し、有意な分析対象事例を 500 例確保した。このように抽出した事例群に対し、「X だ

けどね」と「X、だけどね」それぞれの先行部 X の形式を、次のとおりコーディングした。

a. 名詞句（e.g. 半世紀前、だけどね。）
b. 形容動詞の語幹（e.g. 必要、だけどね。）
c. 助動詞の一部（e.g. おいしそう、だけどね。）
d. 節（e.g. 気力があれば、だけどね。）
e. 名詞句 + 助詞（e.g. 俺は、だけどね。）
f. 副詞（e.g. 少し、だけどね。）

4. 調査結果

「だけどね」の先行部 X の形式に関するコーディング結果を、次に示す。表 1 のとおり、「X だけどね」と「X、だけどね」では X の典型的形式が異なる。

表 1：読点の有無による「だけどね」の先行部の分布の相違

	「X だけどね」（読点なし）	「X、だけどね」（読点あり）
a. 名詞句	**287（57.4%）**	65（13.0%）
b. 形容動詞の語幹	**97（19.4%）**	9（1.8%）
c. 助動詞の一部	**54（10.8%）**	2（0.4%）
d. 節	25（5.0%）	**219（43.8%）**
e. 名詞句 + 助詞	22（4.4%）	**144（28.8%）**
f. 副詞	14（2.8%）	**60（12.0%）**
その他	1（0.2%）	1（0.2%）
合計	500（100%）	500（100%）

まず、読点のない「X だけどね」の場合、「a. 名詞句」、「b. 形容動詞の語幹」、「c. 助動詞の一部」が占める割合が大きい。これらは、「X だけどね」の「だ」が先行部の一部である事例 (e.g. (2a), (2b))、または、X とコピュラの「だ」が一つの統語的構造を形成している事例 (e.g. (2c)) と言える。

(2) a. 好きだけどね。（「だ」が形容動詞「好きだ」の一部）
b. 強そうだけどね。（「だ」が助動詞「そうだ」の一部）
c. 日本人だけどね。（名詞句「日本人」＋コピュラ「だ」で名詞述語を形成）

一方、読点が置かれた「X、だけどね」の X には、節が生起する割合が 43.8%と最も大きい。特に、接続助詞（ば、なら、て、たら等）で終わる形式を取りやすく、X が節である事例の 74.4%が、末尾に接続助詞が生起する事例であった。接続助詞の後件が言語化されず、接続助詞の直後に「、だけどね」が続くものである。

(3) a. はいはい、出てってもいーよって、私が言いましたもん。ただし、自分のことが全部自分でできるなら、だけどね。
b. そろそろ良いものだけが残ってく。まあ良いものがあれば、だけどね。

さらに、「X、だけどね」の X 部分には、「名詞句+助詞」(e.g. (4)) が生起する割合も 28.8%と大きい。さらに、読点のない「X だけどね」との比較で見ると、副詞 (e.g. (5)) も生起しやすい。

(4) a. はぐちゃん役がね、成海璃子。僕は蒼井優のほうが好きです！！！僕はね。僕は、だけどね。
b. かけっこは 1 等〜　といっても 3 人の中で、だけどね。

(5) a.「天気も良いし！」に至っては、さらに意味不明だけど、それでも多分、きっと わたしを「励まそう！」と、思ってくれたのでしょう（多分、だけどね）。
b. 少しだけ人の役に立っているかもしれない…ほんのちょっと、だけどね。

これらをまとめると、読点が挿入された「X、だけどね」の典型的な事例は、「だ」とその先行部 X との間に統語的分断が見られる事例であると言えるだろう。

(6) a. 全部自分でできるなら、だけどね。【節 + だけどね】（3a より抜粋）
b. 僕は、だけどね。【[名詞句+助詞] + だけどね】（4a より抜粋）
c. 多分、だけどね【副詞 + だけどね】（5a より抜粋）

(6) はいずれも、意味を大きく変えずに「だけどね」を終助詞「ね」に置き換えることが可能であり（e.g.「全部自分でできるならね」「僕はね」「多分ね」)、終助詞の位置に「だけどね」が生起していると言える。換言すると、「だ」を含む「だけど」全体を省略することが可能であり、この点においても、「だ」と先行部 X との統語的な一体性の弱さが表れていると考えられるだろう。

意味の観点から見ると、読点ありの「X、だけどね」には、先行文脈の内容が成立するための（ときに実現可能性が低そうな）仮定的な条件や、成立条件の限定性・制約性、確信度の低さ等を示してヘッジをかける用法が目立つ。この意味的・機能的な傾向は、「X、だけどね」の共起語からもうかがえる。「X、だけどね」の事例には、(3b) のように、「まあ/まぁ/まー/ま、」との共起が 500 例中 88 例に見られた。ほかにも、「あくまで」との共起が 24 例、「ただし」との共起が 9 例 (e.g. (3a))、「といっても/とはいえ」との共起が 15 例 (e.g. (4b)) など、限定性や制約性を表す表現と共起しやすい。これに対し、読点なしの「X だけどね」の場合、「まあ/まぁ/まー/ま、」との共起は 500 例中 30 例にとどまり、「あくまで」「ただし」との共起は 0 例、「といっても/とはいえ」との共起も 3 例のみであった。一方で、次の (7) のように、「まず」との共起は 48 例観察された（対照的に、「X、だけどね」と「まず」との共起は 2 例のみ)。「X だけどね」の X 部分には、実現可能性が低い仮定的な条件というよりも、単に時系列において先に起こるという意味での前提が生起しやすいと言えるだろう。

(7) まずは現地語マスターしなきゃだけどね

こうした X 部分の分布の違いを踏まえ、次節では「X、だけどね」の構文的な特徴を整理し、読点が挿入された「X、だけどね」の形式が成立した背景について考察を加える。

5.「X、だけどね」の特徴と成立背景の考察

5.1「だけどね」のチャンク化

4 節で見た分布の相違から、「X だけどね」の「だ」は先行部の付属要素として生起し、「X だ」で一つの統語的にまとまった構造を成す傾向にあるのに対して、「X、だけどね」の「だ」は、「だけどね」の一部として生起していることが見て取れる。このことから、「だけどね」の前に読点が入る形式は、「X だ / けどね」という構造が「X / だけどね」と再分析され、「だけどね」がチャンク化した文末要素としての機能を担っていることの、一つの表れであることが示唆される。そのことがうかがわれる例として特に興味深いのが、形容動詞の語幹の後で、「だ」の前に読点が挿入される事例である。

(8) a. 今でも好き、だけどね。/ b. まあ、エリは長く生きているから当然、だけどね・・笑

文法的には「好きだ」「当然だ」でひとまとまりの形容動詞であるはずだが、「X、だけどね」の形式の中で「だけどね」がチャンク化した文末要素として比較的安定的に使われるようになったことで再分析が起こり、上記 (8) のような用例も、「X、だけどね」の構文を具現化した事例として許容されるようになっていると考えられる。さらに、2021 年の Twitter を見ると、2014 年時点のデータを対象とした NWJC の調査では見られなかった「〜ん、だけどね」の形式も観察された。

(9) a. わんだほーさん可愛いしイケメンだと思うん、だけどね (@OtohaShirakami, 2021/5/3, Tweet)
b. 自分で言うには、ちょっと言いづらいん、だけどね... (@S9_Hi9, 2021/4/24, Tweet)

時系列の変化を追う網羅的調査には至っていないが、X に節が生起する事例を典型として成立した「X、だけどね」の構文スキーマが拡張され、文法的には「だ」との構造的な一体性が強い要素も、「X、だけどね」の X 部分に生起可能になっているのではないかと考えられる。以降では、こうした「だけどね」のチャンク化が起こった動機づけを、形式・機能の両面から探ってみたい。

5.2 読点が入る動機づけ：形式的側面

4 節で示した分布と関連し、「X、だけどね」の X 部分は、「全部自分でできるなら、だけどね」「僕は、だけどね」「多分、だけどね」のように副詞的要素や主題のみが生起して述部は生起しない形式になりやすく、その結果、X と後続するコピュラ「だ」との間に統語的分断がある。[1] また、「だけどね」の直前が名詞句である場合にも、「X だけどね」と「X、だけどね」の間で名詞句の性質に違いが見られた。読点がない「X だけどね」の場合、(10) のように、「また、ゆっくりと訪れたい場所」「最高な雪」など、先行文脈で言及した対象物の属性を表す名詞句が生起しやすい。

(10) a. また、ゆっくりと訪れたい場所だけどね / b. 雪だるま作るなら最高な雪だけどね

[1] 次のとおり、これらは「だけどね」が続く場合以外の環境でも、読点が後続しやすい形式である。
(i) 自分でできるなら、やったほうがよい。/ (ii) 私は、行く予定だ。/ (iii) 多分、わかると思う。
こうした関連事例の生起頻度の高さも、「X、だけどね」の構文の定着を促した一因と考えられる。

一方、「X、だけどね」の場合は、用言で言い換え可能な出来事名詞が生起しやすい。(11) 下線部の名詞句は「確率がアップする」「お開きにする」「電子レンジでチンする」と言い換えられる。

(11) a. …とは言え、仕事明けの晴天の場合、布団と仲良くしている確率アップ、だけどね。
b. 長くても 2 回繰り返したところでお開き、だけどね
c. と言っても、時間がない時は、電子レンジでチン、だけどね

コピュラ「だ」の前には典型的には名詞句が生起し、属性叙述文を構成する (影山 2012 等)。その典型事例から離れ、X と「だ」との間に統語的な分断がある事例ほど、読点が置かれた「X、だけどね」の形式になりやすいことが見て取れるだろう。このことから、読点は、X とコピュラの「だ」の間の統語的な分断を橋渡しし、両者をつなぐ役割を担っているのではないかと考えられる。この傾向は、「X、だけどね」という表現に固有のものではなく、コピュラの前に読点が生起する他の事例群にも見られるものである。

(12) でも 100 円ショップで困らない程度の、・・・というかむしろこっちのほうがいいじゃん、なカレンダーがたくさんある

5.3 読点が入る動機づけ：機能的側面

機能的観点から見ると、読点で区切ることは、「だけどね」の先行部を際立たせる、体言止めや、鉤括弧の付与による引用や強調に通じる機能を持つと考えられる。例えば、上記 (11) の例はいずれも、用言で表しうる事態が「確率アップ」等の名詞句で表現されることでその部分が強調され、体言止めと同様の、印象付けの効果が生まれていると思われる。

さらに、「X だけどね」に比べ、「X、だけどね」の X 部分は、先行文脈の一部の繰り返し（または、類義表現やより正確な表現への言い換え）である場合が多い。(13a) の「僕は」、(13b) の「多分」、(13c) の「ほんのちょっと」は、それぞれ、先行する「僕は」「多分/きっと」「少しだけ」の繰り返しや言い換えとなっている。

(13) a. 僕は蒼井優のほうが好きです！！！僕はね。僕は、だけどね。（4a より抜粋）
b.「天気も良いし！」に至っては、さらに意味不明だけど、それでも多分、きっと わたしを「励まそう！」と、思ってくれたのでしょう（多分、だけどね）。（=5a）
c. 少しだけ人の役に立っているかもしれない…ほんのちょっと、だけどね。（=5b）

「X、だけどね」において、X 部分が直前 2 文以内に生起する表現の繰り返しや言い換えとみなせる事例は 500 例中 57 例見られたが、「X だけどね」の場合はその事例が 15 例であった。また、「X、だけどね」は「正確には/正確にいうと」との共起が 9 例、「厳密には/厳密にいうと」との共起も 2 例見られたが、「X だけどね」とこれらの表現の共起は 0 例だった。ここにも、「X、だけどね」と、先行文脈の一部の表現を取り上げて言い換える機能との結びつきの強さがうかがえる。

(14) しの犬は、こうしていつも私達を待っているのです。正確には骨を、だけどね。

先行文脈の一部の表現を焦点化し、それを繰り返す（または言い換える）という点で、(13) や (14) の読点の用法は、鉤括弧を使った引用・強調との類似性が見られる。換言すると、読点は、鉤括弧を使わずに先行文脈の一部を引用・強調する手段として用いられており、「だけどね」の直前部分の表現に焦点を当てたいという機能的動機づけが、「X、だけどね」の構文成立に寄与していると考えることができるのではないか。

6. まとめ

読点は文法研究において周辺的要素と捉えられてきたが、「X、だけどね」の読点はランダムに生起しているわけではなく、「X、だけどね」は「X だけどね」とは異なる独自の機能を持つ構文となっている。Hilpert (2019) が挙げた以下の構文の認定基準 (i)〜(iv) と照らしても、「X、だけどね」には、独自構文としての性質が見て取れる。

(i) 形式の不規則性：「だ」の前に読点が生起する・X の分布が「X だけどね」とは異なる
(ii) 意味の不規則性：読点による引用・強調の効果がある
(iii) 表現独自の制約：「だ」と先行部分 X との間に統語的分断が見られる
(iv) 共起語の偏り：限定性・制約性を示す表現や、言い換え表現と共起しやすい

本研究は、語彙的・文法的要素だけではなく読点も構文の構成要素となりうることを示している。これは、過度に抽象化されたスキーマではなく、読点の有無をも含む具体的な使用に依拠した構文認識のあり方を示唆するものであり、具体的な言語使用から構文に関する知識が創発・定着するという用法基盤モデルのアプローチの妥当性を示していると言えるだろう。

参考文献

文化審議会国語分科会 (2018) 「分かり合うための言語コミュニケーション（報告）」文化庁. 2018.3.2.
Bybee, Joan L. (2006) “From usage to grammar: The mind’s response to repetition.” *Language* 82 (4), 711- 733.
Bybee, Joan L. (2010) *Language, Usage and Cognition.* Cambridge: Cambridge University Press.
Hilpert, Martin (2019) *Construction Grammar and Its Application to English*, Second Edition. Edinburgh: Edinburgh University Press.
Houghton, Jenneth J., Sri Siddhi N. Upadhyay and Celia M. Klin (2018) “Punctuation in Text Messages May Convey Abruptness. Period.” *Computers in Human Behavior* 80, 112-121.
影山太郎 (2012)「属性叙述の文法的意義」, 影山太郎（編）『属性叙述の世界』, 3-35. 東京：くろしお出版.
国立国語研究所コーパス開発センター（編）(2017)『国語研日本語ウェブコーパス』（2014-4Q データ, 梵天バージョン 1.0.0）https://bonten.ninjal.ac.jp/（2021 年 2 月 13 日確認）
『国語研日本語ウェブコーパス』(NINJAL Web Japanese Corpus), 国立国語研究所. [NWJC]
日本語教育学会（編）(2005)『新版日本語教育辞典』. 東京：大修館書店.
斎賀秀夫 (1959)「句読法」『続日本文法講座 2』, 254-275. 東京：明治書院.
柴﨑礼士郎 (2019)「句読法の歴史的変化に見る動的語用論の可能性—イギリス英語の full stop を中心に」, 田中廣明ほか（編）『動的語用論の構築へ向けて 第 1 巻』, 144-165. 東京：開拓社.
田中ゆかり (2014)「ヴァーチャル方言の 3 用法：「打ちことば」を例として」, 石黒圭・橋本行洋（編）『話し言葉と書き言葉の接点』, 37-55. 東京：ひつじ書房.
Thompson, Sandra A., Barbara A. Fox and Elizabeth Couper-Kuhlen (2015) *Grammar in Everyday Talk.* Cambridge: Cambridge University Press.